

**製品名: OSR1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab15521**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	OXSR1
別名	OXSR1; KIAA1101; OSR1; Serine/threonine-protein kinase OSR1; Oxidative stress-responsive 1 protein
遺伝子 ID	9943.0
SwissProt ID	O95747
免疫原	抗血清はヒト OSR1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

**背景**

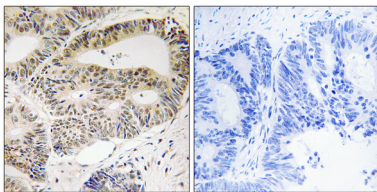
この遺伝子産物は、Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリーに属する。環境ストレスに反応して下流のキナーゼを制御し、アクチン細

胞骨格の制御に関与している可能性がある。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素制御: スレオニンの自己リン酸化による。機能: 環境ストレスにตอบสนองして下流のキナーゼを制御する。アクチン細胞骨格の制御にも関与している可能性がある。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。STE20 サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: PAK1 に結合してリン酸化します。塩素イオンチャンネルタンパク質 SLC12A6 アイソフォーム 2、SLC12A1、SLC12A2 と相互作用するが、SLC12A4 および SLC12A7 とは相互作用しない。環境ストレスに対する細胞応答を開始させるセンサー/シグナル伝達モジュールを形成する可能性がある。RELL1、RELL2、および RELT に結合し、リン酸化を行う。組織特異性: 検査した全ての組織で普遍的に発現する。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



OSR1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。